



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：女性の政治参加に関する要人の発言 (1日付ジャジーラ紙ほか)

1. サウジアラビアの10月1日付ジャジーラ紙は、サウジ女性の政治参加に関するバン国連事務総長の発言について報じている。
  - (1) 9月30日、バン国連事務総長は、サウジのアブドッラー国王がイスラムに基づいた形で女性の地方議会選挙における参政権（投票権・被選挙権）および諮問評議会への参加を決定したことに対して、高く評価した。
  - (2) 国連事務総長オフィスの発表によれば、国連事務総長は、これらのサウジ国王の決定がサウジの開発におけるサウジ人女性の役割の強化に資する重要な一歩であると認識しているようである。
  
2. サウジアラビアの10月1日付リヤード紙は、サウジ女性の参政権に関するイーサー司法相の以下のような発言について報じている。
  - (1) アブドッラー国王による女性の諮問評議会への議員としての参加、および、地方議会での参政権（投票権と被選挙権）に関する決定は、女性の国家事業への参画という意味で非常に重要な転換である。
  - (2) アブドッラー国王は、国家基本法（憲法）に基づいて、行政監督や行政サービスにおける女性の役割を強化してきた。既に諮問評議会では女性が役割を果たしてきているが、今回の国王の決定は、女性の役割のレベルを高めるものである（注：諮問評議会には現在、13名の女性アドバイザーが存在）。
  - (3) 最高ウラマー評議会の多数がアブドッラー国王のこれらの決定を支持している。また、最高ウラマー評議会は設立以来、本件について専門的に議論してきた経緯がある。
  - (4) アブドッラー国王は本件に関し、内外のウラマーの専門的意見を聴取した経緯がある。本件は、ある見方によれば国家社会的な要素のものであり、また別の見方によれば、基本的にイスラム法に関する案件であると言える。